

1 事業名

平成25年度教育事業 「体験活動支援セミナー」

～ドキドキ わくわく ボランティア 夏～

2 趣旨（事業の目的）

自然体験活動を支援する立場として、学校外における体験活動を主体的に運営や補助を行う上で、必要な知識や技能を学ぶ機会とする。また、習得した知識・技能を活かす場として、実際に小学生を対象とした事業を自主的に進められるようにする。

3 期日

平成25年8月24日（土）～25日（日）

4 参加者 20名

（高校生7名，大学生・短大生13名）

5 連携・協力 岩手県教育委員会，盛岡市教育委員会，滝沢村教育委員会，盛岡大学

6 内容

（1）日程

日時	9:20 9:40		10:00	10:50	11:45	13:00	13:30	13:50	15:00	18:30	20:00	21:00	21:30	22:30		
24日 (土)		参加者受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての打合せ	昼食	小学生受付	はじめの会	活動1 「仲間づくり アイズプレイク」	活動2 「創作：箸づくり」 「野外炊事」	活動3 「キャンプ ファイヤー」	入浴	就寝指導	振り返り	就寝準備	就寝
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:00	13:00	14:00	14:30	15:00	15:15						
25日 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	活動4 「野外炊事を楽しもう！ わくわくランチ」	片づけ	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と 児童理解」	開会行事	参加者解散				

・太枠で囲まれている部分は小学生との活動です。

（2）・指導者

国立岩手山青少年交流の家

主任企画指導専門職

相澤 文彦

企画指導専門職

丹 康浩

事業推進係

長谷川 祐太

・指導補助

法人ボランティア

7名

（3）企画のポイント

法人ボランティアには、テンパークちゃれんじくらの企画・運営に携わりながら、青年参加者に対する支援を行うことができるように設定した。5月から、事前準備のためのミーティングを重ね、企画や事前の準備を行ってきた。また、社会教育実習生及び一般参加者にはグループリーダーとして、小学生とのふれあいを十分に体験できるように企画した。

（4）広報のポイント

年度当所から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学，高等学校，報道機関に送付した。

## (5) 運営のポイント

初日の午前には小学生を迎えての活動に備えて、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。また、参加児童の健康調査票を作成し担当する班の児童の健康面や心理面、保護者からの心配事等を把握することで、児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。小学生ができるだけ楽しく過ごせるように積極的に児童と関わるようにし、高校生や大学生自身の学びが深まるように工夫するため、青年参加者を2～3名ずつ小学生の班にグループリーダーとして配置した。

体験活動支援セミナーの参加者も法人ボランティアも、それぞれ別時刻にふりかえりを行い、子どもの宿泊室から大人が離れることがないように設定した。

## 7 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、2日間をとおして、小学生と関わりたいと思う意識の高さが伺えた。グループリーダーとして、子どもたちと深く関わり、子どもたちと真剣に向き合う中で、子どもたちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、多くのことを学ぶことができた。事業の目的どおりの成長が見られた2日間であった。アンケートの結果も大変高い満足度であった。また、事業の振り返りのワークシートには、子どもたちの様子や関わり方を見つめた記録が残り、セミナー参加者自身、自分の変容を認識させることができた。この結果について、広く県内の施設に普及していきたい。

## 8 今後の課題

体験活動支援セミナーの参加者は、全員グループリーダーとなってもらい、法人ボランティアが、テンパークちゃれんじくらぶの企画と運営を行った。5月からボランティアミーティングを重ね企画に取り組んできたが、今回は、大枠を職員で提案し細部の企画運営について法人ボランティアが担当する形となった。次回の「ちゃれんじくらぶ(冬)」の事業については、法人ボランティアに最初の企画運営についても関わらせながら、法人ボランティアの企画運営力の向上にも努めていきたい。



班別ミーティングの様子



創作「箸作り」活動支援



野外炊事活動支援